

再発見・牛久第二十三話

牛久市文化財保護審議委員

栗原 功

河童の碑

河童の碑・説明文 — 牛久市指定文化財 —

河童の碑の由来

河童の碑は、牛久沼畔の高台、城中町の牛久藩陣屋跡の一郭にある。

河童の碑は、小川芋銭おがわ げんの芸術と人柄を敬慕する、池田龍一、犬田卯飯野逸平、小林巢居そうきよ(戦後は巢居人と称した)、篠目篤、西山謙三、吉井忠、加藤鎮雄の手によって昭和27年(1952年)5月に建てられている。河童の碑が建立されてから、61年の歳月をへて、平成25年4月22日に牛久市の文化財に指定された。

このほど河童の碑の説明板を交換して、文面を書き換えたのでそれを次に記しておく。

河童の碑・説明文

河童の碑は、小川芋銭没後の昭和

27年(1952年)に、芋銭を敬慕する池田龍一他7名の方々によって建立された。

小川芋銭(本名茂吉しげきち)は、慶応四年(1868年)・同年9月8日に明治に改元)2月18日に江戸・赤坂溜池の牛久藩藩邸内の官舎で生まれる。芋銭の父賢勝よしかつは、江戸・牛久藩藩邸で少参事の重職にあったが、明治4年(1871年)7月に新政府が断行した政治の大変革・廃藩置県により失職したため、旧牛久藩領の城中村(現城中町)に一家を挙げて移り住み、帰農している。

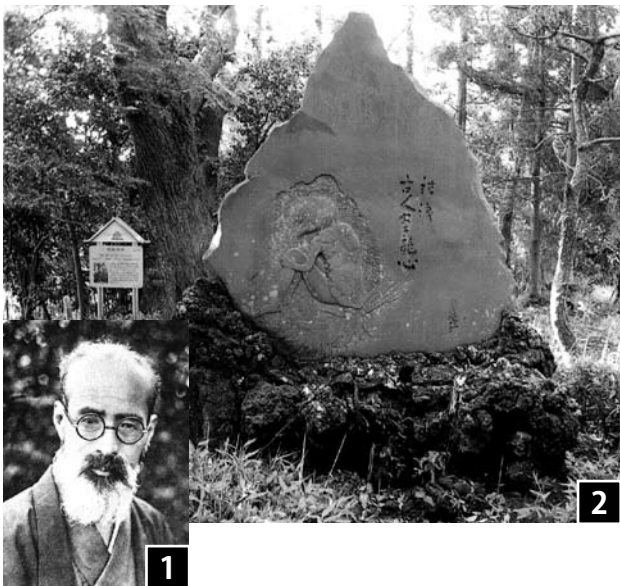
芋銭は、牛久小学校下等科(入学時は牛久学舎)卒業後上京、京橋区の親戚・藤谷小間物店で働く。間もなく伯母の婚家に移り、芝区(現港区)の公立・桜田小学校尋常科に通う。明治初年は文明開化の世の中、政府が、明治9年(1876年)に洋行帰り(土佐藩藩費留学)の国沢新九郎くにさわ しんくろうの協力で、美術学校を開校してイタリア人画家を招き洋画技術を教えた。国沢が麹町区にひらいた洋画塾・彰技堂しょうぎどうは、弟子の本多錦吉ほんだ きんきち郎(日本

で最初にペンを使用して漫画を描いた)が引き継いだ。絵を好んだ芋銭は、13歳のときから、牛込区に移っていた彰技堂の本多に就いて3年余、洋画の基本的な技術と漫画の描き方を習得した。その頃、町絵師抱朴斎ほうぼくさいに会って南画の手ほどきを受け、のちの芋銭独特の画風・新南画の下地が築かれた。芋銭26歳のとき、父の命で帰郷し、これより農業に従事しながら絵を描く。『芋銭』の雅号を用いるのは明治29年(1896年)頃からである。

芋銭が大正6年(1917年)の第3回珊瑚会展に出品した『肉案にくあん』が評価され、横山大観よこやま たいかんに日本美術院の同人に推される。

芋銭芸術は、河童百図、日本画、独自の画境・新南画、漫画・挿絵さしえ(主に各紙新聞へ寄稿)、俳誌表紙画、俳画など多岐にわたり、生涯の作品は大なる数字に達している。『牛里』の号をもって俳句をよみ、短歌もひねり、書しよの作品も数多い。河童の碑の碑面に刻まれてある七言漢詩『誰識古人画龍心たれか するこじんりゅうしんをえがく』が彫られてある。

芋銭の晩年は、江戸時代後期の禅僧良寛らうかんに学ぶ生活のようであった。昭和13年(1938年)に没している。



1 小川芋銭(本名茂吉)

慶応4年2月(1868年。この年9月8日明治に改元)～昭和13年(1938年)12月

2 河童の碑

河童の碑の表には芋銭が描いた河童の絵(少し背を丸めひざを曲げて座っている)と、芋銭が作った『七言漢詩・誰識古人画龍心(たれかするこじんりゅうしんをえがく)』が彫られてある。